



一日一言

火防貯水池の設置計画

十二日夜市公會堂日本間に開かれた、平消防組の新年安會席上、平消防組の新年安會席上、平消防組の新年安會席上...

新文具御案内

- 書道用練習筆
長録快適 (古梅園製)
一號より八號まで
價段十八錢より一圓四十錢迄

石炭
水野石炭店
平市白銀町(電話二九九)

看護婦と家政婦
平市南町
平看護婦會
會長 清野キヨ

樂太鼓 各種
神社佛閣用太鼓
武徳道場用太鼓
佐藤太鼓樂器店

吸入用酸素
純度99%
体温器
寒暖計

消食散
二百年の歴史を有する
丸龜商店

魚清 なたべ料理
魚清食堂
電話六三三番

松村 専門
胃腸病科
花柳病科
泌尿器病科

木村病院
産人科
婦人科
外科

吉田眼科
平市新屋町(電話六八番)

北川外科
醫學博士 北川芳夫
平市新川町(電話四六四)

西村屋藥局
藥品百貨
寫真機材料の店です

快鼻湯
蓄膿症
水野藥局
責任製劑者 水野清

觀光石城案内
石城觀光會發行・定價十五錢
マルトモ書店發賣

# 夕刊 磐城時報

行發日三十

編輯兼發行 岡田弘成  
印刷 磐城時報社  
發行所 磐城時報社  
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢  
廣告料一行十四字 詰五十錢  
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

昭和十四年一月十三日發行  
号外

## 運命迫る小平鐵道路線問題

### 片濱線實現の爲めに 全市民は蹶起せよ！

縣會議員 關内正一

平小鐵道の着工は目睫の急に迫つて來た、磐城海岸軌道の泉—小名濱間鐵道敷設請願等の關係もあつて、鐵道側は愈々旬日を出でずして路線を決定するであらう、片濱線にするか、湯本廻りに決するか？ 地方民最後の五分間の運動に依つて路線は決定する、平市にこつて片濱線が絶對的に必要であることは今更議論の余地はない程明々白々の事實である、間諛々々して時日を遷延すれば悔を千載に遺す結果となるから、この機を逸せず片濱沿線高久、夏井、豊間、江名四ヶ町村から成る平小鐵道片濱經由期成同盟會と相呼應し、全市民を擧げて飽くまで吾等の生命線たるべき片濱經由路線の實現に邁進すべきである

### 危急存亡の秋！

一人残らず調印参加を望む

町制時代の平町會は全會一致でき場合でなく、何れかに路線を片濱線を支持しながら一昨年の決定直ちに着工する危急存亡の市會で俄かに態度を一變し、路線時であり、この路線の決定如何はどちらでもよい」と所謂「白こそは全市民の幸、不幸の岐れ紙還元運動」なるものをデッチ路となるものであるから、全市上げ、路線採取運動の爲め鐵道民は躊躇なく片濱運動に参加し建設を阻害する如く吹聴して市目下有志によつて進められて民の利益に反する運動を行つて居る陳情書には一人残らず調印、來たが、この白紙還元運動を片濱線の實現に協力せられんことは市民を愚弄するも甚しいものと切望して止まらぬのである、現況は市民の運動によつて鐵道促進を阻害するが如

### 最後の陳情戦

十四日大舉 上京

片濱經由期成同盟會の關係四町村長は同會の幹部及平市内の有志等と相携へ調印を纏めて十四日早朝大舉して上京、貴衆兩院議院並に鐵道關係方面へ陳情、飽くまで初期の目的を貫徹する覚悟であるから市民各位の全幅的支援を重ねて切望する

(裏面に続く)



# 片濱線即ち平市の生命線

## 湯本廻りは何故いけないか

問題の平小鐵道は表日本と裏日本を結ぶ重要な經濟路線で、政府は時局の關係から着工を延期してゐたが、重要路線として開通の緊要を認め、近々着工の運びと成つたものである、同線が鐵道省の豫算に現れたのは昭和三年で當初六十萬圓の既定額だったが昭和九年百十四萬三千圓に増額、十一年更に三ヶ年繰繰事業として百七十七萬三千圓に更正された、

この間昭和三年十二月の縣會で全會一致片濱經由線の請願が採擇され、濱縣會議長から望月内相へ意見書提出、越へて昭和四年二月二十四日當時の代議士木村清治氏の紹介で衆議院は満場一致、河野正名町長提出の片濱經由線に依る請願書を採擇、同年第六十七議會で岡田武彦男爵を紹介議員に貴族院は同線片濱經由線の請願を採擇、同年代議士佐藤庄太郎氏の紹介で衆議院も同様請願書を採擇、同年五月代議士助川啓四郎氏の紹介で衆議院は同線請願採擇、

前述の如く議會毎に片濱經由線の請願は採擇され、更に昭和十二年六月には起點の平市及終點の小名濱町を初め郡内二十ヶ町村(組合村を含む)が片濱經由線を決議して中島鐵相へ連署の陳情書を提出、郡民の願利に片濱線の可否は既に議論も盡きてゐる

**湯本線** は平驛から湯本驛まで常盤線を利用し、湯本驛から小名濱港へ通ずる延長十六キロ五百七十米、萬一湯小線に決定せんか、小名濱港で陸揚げした物資は湯本驛か

ら常盤線に乗り替へ上下兩線に散じ、旅客も同様平驛を案通りして市には何等の恩恵も與へず利益ある處皆無である大體湯本線なるものは港を利用するため石炭を輸送せんとする石炭線に考へられたものであつて、炭礦は移動性があるつて、小名濱港が炭礦に依存出来ないことは萬人の認むるところである、然も磐城海岸軌道會社が泉—小名濱間に地方鐵道を施設せんとするとき何を苦んで併行線を作らんとするか吾人も全く理解に苦しむ、湯本驛驛内を横切り鐵道のガレと云はれてゐる磐城炭礦の買収が目的であるとすれば大發明が立たないのではあるまいか

**片濱線** は平から夏井、高久、豊間、江名の四ヶ町村を經由して小名濱に至る延長二十二キロ六百六十四米、湯本廻りに比し六キロ長く、工費百四十萬圓で既定豫算より二十四、五萬圓多い譯である然し片濱には中の作、江名の豊間の三大漁港あり既に工費八十萬圓の國庫費を修築に費し、現在内務省中小港灣指定の江名港は三十萬圓の工費で修築を急いでゐる、三港の水揚高は昭和九年度百八十八萬圓から同十年度二百四十萬圓、同十一年度三百萬圓と激増、

片濱地方の水産業は遠洋漁業の發達に比例して躍進の一路を辿り、陸上の輸送機關が整はないため勢なからず發展を妨害され多数漁船は止むを得ず他港へ廻航するの現況にある同地方は名勝地としても沼の内野天、楯屋御燈臺、その他十指を屈し、縣内一の海水浴場たり、旅客輸送上にも無くてならぬ路線である、

海岸軌道の泉—小名濱線が開通すれば片濱から理想的な環境と成る譯で、片濱町村にとつては全く生命線である

**平市** が何故片濱線を開執するか？平市は固より郡内の物資を集散する商工業市であつて、炭礦の繁榮に依つて受ける恩恵は頗る大きい、然し炭礦の盛衰は常に甚しく、現在の好況を何時までも夢見て炭礦に依存せんか、一度不況時代に遭遇すると、炭礦と共に衰頹の一路を辿り、拾収出来ない状態に至る怖れあり平市は飽まで商工業市として片濱漁港の物資を吸集、片濱地方民と共存共榮の下に永遠の繁榮策を樹てるべきであらう、吾人の片濱線固執の理由も此處に存し、片濱關係町村以上に平市の生命線であることとを認識せねばならぬ